

いおく 井奥まさきの ニュース 市政報告NEWS

2006・8・7

8月7日号

(通算53号)

このNEWSは、みどり・市民派をめざす高砂市議会議員 井奥まさきによる市政レポートです。

議員成績表

議員の仕事は発言 裏工作ではなく、表の議論を重視します

市議選の争点は「議員の仕事とは何か」

質疑でカッコ内は議長のため発言できない回数 (市政ウォッチング調べ)

会派	議員	質疑	発言	回数	会派	議員	質疑	発言	回数
公明	井奥 雅樹	2	(40)	15	公明	橋本 芳和	2	(59)	11
	鈴木利信	1	(46)	15		砂川 辰義	1	(54)	10
政友会	生嶋 洋一	7	(63)	11 (4)	新社会	八田美津子	1	(57)	2
	池本 晃	7	(61)	11 (1)		秋田さとみ	4	(55)	10
	萬山 忠彦	5	(66)	6 (2) 引退		北 元次郎	4	(52)	13
	木村 巍	2	(65)	9 引退	政和会	宮本 幸弘	3	(59)	15 引退
	澤野 博	1	(63)	0		加古 秋晴	5	(68)	8 (7) 引退
	北畑 哲哉	1	(55)	0		北野誠一郎	3	(45)	15
民主クラブ	船田 昭信	5	(63)	15 引退	共	入江 正人	2	(54)	15
	横山 義夫	2	(51)	6		小松美紀江	3	(61)	15
	近藤 清隆	2	(46)	15	無	中須 多門	7	(62)	15
	福元 昇	1	(50)	0	無	西野 勝	6	(68)	7
市民	岡本 勝弘	5	(65)	3	無	今竹 大祐	5	(55)	15
	坂牛 八州	4	(62)	5 引退	無	松本 均	5	(53)	14

高砂の通常議会モデル
 初日 市長の提案理由説明
 (議案熟読のため、2日休会)
 5日間程度 質疑
 1日 一般質問
 3日間 委員会
 最終日 討論、採決

恒例の議員成績表の季節がやってきました。

これを見てどう感じるか、評価は皆さん自身でやっていただきたいのですが、私の姿勢は「議員の仕事は発言」です。議会内での根回しを中心とした活動や「先輩を立てて」というようなスタンスは議会の形骸化に繋がります。

議会で発言しないと自分の考えを市民に知らせることも出来ませんし、それでは絶大な権力を持つ市長に対抗出来ません。

また、神戸市の村岡議員のように「闇の力」を増大させます。

私は公開の場で堂々と議論が出来るような議会にすべくこれからも議会改革に取り組んでいきたいと考えています。

「一般質問」は、多くの議員が「質問原稿」を先に渡し、市長は用意された答弁を読み上げるだけです。質疑こそ議員の力量が問われます。

子育て日記

それゆけ！パパママチャリ 安全な道づくりを



最近の自転車って侮れない

娘を保育園に送り迎えする時はいつも「パパチャリ」です。

ルをロックをする機能や、シートベルトなどパパママチャリといっても侮れません。

娘は自転車がお気に入り、機嫌が悪くても乗せるとゴキゲンです。ただ、ハンドルを持って左右に動かそうとするのがあぶなっかしくて困ります。

パパママチャリが走りやすい道路づくりを

自分が乗っていると、他のパパママチャリが気になります。みんな一生懸命子どもを乗せて

こいでいます。時々、子どもがぐずったりして大変そう。最近、健闘が目立つのが男性陣です。「パパ(じいじ)チャリ」を見と心の中で応援しています。

そして、自転車で走っていると道のでこぼこや狭くて走行で危険なところがわかります。パパママチャリや高齢者の自転車が安全に走れる道を整備するように行政に提言していきたいですね。

妻が希望したので、少し高かったのですが「専用車」を買いました。前輪が後輪に比べて小さいため子どもも乗せやすく、視界も広くて安全です。

乗せおろしの時にはハンド

このニュースは、環境に優しい再生紙と大豆インクを使用しています。

田村市長の無策財政

1期目の財政破綻を招いた反省ゼロ...ですが

借金優良市を8年で「国の指導下」においた財政失敗

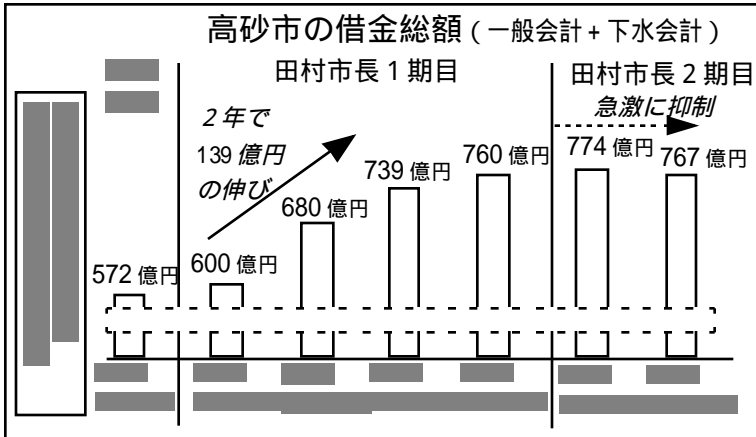
県下ワースト7に入る

かつて高砂市の財政を表現するのに「借金も少ないが、貯金も少ない」と言われていました。ところが、貯金の少なさはそのまま（人口比率では県下最悪）にもかかわらず、借金の比率は「県下ワースト7」であることがわかりました。

これは、神戸新聞7月26日の報道によるものです。国の方針変更に伴い、今年より「借金は自由に」できるようになりました。ところが、「経営状況の悪い」自治体は以前通り計画を出させる「国の指導下」に置かれます。

経営状況を示す指標を「実質公債費比率」と言いますが、それが18%を超えると国の指導が入ります。

報道では県下で約3割（7市）の自治体が18%を超えそうですが、高砂市は21.4%と基準を大幅に上回っています。



3月議会資料によれば、2006年（平成18年）の高砂市の「実質公債費比率」は21.4%です。（国の基準18%）

平成11、12年の過大な投資が原因 事業の抑制や市民サービスの切り捨てを行い、かろうじて自治体倒産は免れました。

原因は明らかです。グラフを見ていただいてもわかるように、平成11、12年に140億円以上の借金を行っているからです。高砂市は年間50億円程度の借金返済を行っています。この範囲内に事業を抑えれば、借金総額は増えません。ところがこの2年間で多くの事業を行ったため、急速に財政が悪化したのです。

しかし、1期目に増えた150億円以上の借金はほとんど返済出来ていません。そして、それだけの事業をしておきながら、市民が一番望んでいる図書館や学校の補修事業は進んでいません。

長期計画が立てられない財政運営。これを続けさせてはいけません。

2期目に入ってから建設

サントリー横工業公園

マスコミ/ミニコミも意図的か？恣意的なキャンペーン

工業公園8割処分は「賃貸」ばかり 高金利になれば破綻

サントリー横の工業公園に関する基礎知識

- ・現在の確定は賃貸22件、売却2件の53%だけ
- ・大口の25%以上の会社（1社）は保留状態
- ・総額約100億円の事業費すべてが借金
- ・平成18年度現在で2億円以上の累積赤字
- ・現在借りている年0.83%という異常な低利でも1年で1億円以上の利子が膨れあがる
- ・平米単価6万200円で売却交渉したが希望会社はゼロ[大内市長時代には24社希望があったが、田村市長時代には24社全社が辞退]
- ・結局、単価5万円前後で2社によやく6%売却（この時点でもし全部売却したら13億円の赤字）
- ・現在、賃貸で年2億円以上の売り上げをして、金利との差額で赤字を解消しようとしている

マスコミやミニコミでは「工業公園8割処分」が報道されています。しかし、実態は左のありさまで。何より処分のほとんどが10-20年の賃貸ということを隠しています。

工業公園事業は高砂市が全額債務保証していますので、赤字はすべて税金を投入しなければいけません。賃貸収入での赤字解消はなんと20年後という計算になっています。しかも、1%以下の低金利が続けばという甘い見込みですので、現在の「ゼロ金利解除による高金利時代」では赤字が膨れあがるだけです。市民に正直に現状を伝えて、早期に税金を投入するしか方法はないのですが。

高齢者増税で、介護保険のサービス受給者への影響も大きく、年10万円以上の負担が判明 詳しくは次号以降で

税金が伸びた（結局は国の仕送りが減らされるから同じ）などとむやみな明るさを求めず、しんどいこともきちんと市民に情報を公開して、一緒に考えるべきです。